

編集後記

「米国は使い捨て主流」, 「日本はリサイクル主流」というのが一般的な認識だったと思う。他方, 日本では米国の影響が強いためか, 欧州については, 歴史, 芸術, 観光以外は余り強く意識されてこなかった感が強い。近年, 欧州は再生可能エネルギーの早期導入で世界に先行し, 更に, 気候変動対策とそのためのエネルギー源のシフト, 投資先の選別基準に環境負荷を取り入れるルール化の動きで世界をリードしつつある。

欧州は過去の植民地支配から欧州連合形成まで, 伝統的に, ルール作り, 標準化に長けているように思う。本号最初の記事で紹介された, 再生可能エネルギーが世界的に大量導入された際の鉱物資源リスクに対処するため欧州が推進するサーキュラー・エコノミー構築も, ルール作り, 標準化の一環と見なせる。使用済製品から鉱物を取り出しての循環使用であり, 技術的には日本が得意とするリサイクルに近い分野とも言える。日本がうまくこの動向を把握し, ルール化, 標準策定に関与し, 国内外でうまく制度設計できればエネルギー安定供給および経

済分野で一定の地位を築くチャンスかもしれない。

続く2つの記事は, 経済開発協力機構に関するものである。加盟国数の割合からすれば, これらの記事も欧州中心の動きに関するものと捉えられる。どちらも原子力関係であるが, ポストコロナを見据えた動き, 今後世界的に拡大する廃止措置の動向についてであり, 最初の記事のルール作り, 標準化と似た側面とグローバル化の観点で重要な示唆を含む。

昨今のエネルギー情勢を見ると, 米国にはIoT, AIを主体にGAFA等のプラットフォームがあり, エネルギー分野でも米国の存在感が増している。また, その米国は, 同じくエネルギー・経済分野で巨大化してきている中国との関係で, いわゆる「米中戦争」となっている。

上記に加えて, サプライチェーンのグローバル化等, 世の中が複雑化し, 何事も国内では完結しなくなっている。このような中で弊所の令和3年度事業計画を含め, 本号の記事が, 皆様の今後の事業活動に少しでもご参考となれば幸いである。

編集責任者 茶木雅夫

季報 エネルギー総合工学 第44巻第1号

令和3年4月20日発行

編集発行

一般財団法人 エネルギー総合工学研究所

〒105-0003 東京都港区西新橋1-14-2

新橋SYビル（6F）

電話（03）3508-8891

FAX（03）3501-1735

<https://www.iae.or.jp/>

（印刷）株式会社 吉田コンピュータサービス

※ 無断転載を禁じます。